



9.

『ウエスト・ウイング』挿絵・原画、1963年
©2026 The Edward Gorey Charitable Trust

エドワード・ゴーリー 秘密のメッセージ

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F info@shizubi.jp

Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

エドワード・ゴーリー

秘密のメッセージ

不思議な世界観とモノトーンの緻密な線描で、世界中に熱狂的なファンをもつ絵本作家エドワード・ゴーリー（1925-2000）。日本でも『うろんな客』、『けだもの赤子』などの絵本が紹介され、生誕 100 周年となる 2025 年末には『E はエドワードの E ゴーリー大解剖』が刊行されるなど、日本での知名度も拡大しています。ゴーリーは自身がテキストとイラストの両方を手がけた著作以外にも、挿絵や表紙、舞台などのデザイン、演劇やバレエのポスターなどを手掛け、多彩な才能を発揮しました。本展では、日本初公開を含む絵本や挿絵の原画のほか、ポスターや出版物など約 300 点の作品により、そこに込められた秘密のメッセージを読みときます。

■開催概要

■開催期間 2026 年 11 月 28 日（土）－2027 年 1 月 11 日（月・祝）【全 35 日間】

■休館日 毎週月曜日、年末年始（12/28～1/1）＊ただし、1/11（月・祝）は開館

■開館時間 10:00－19:00（展示室入場は閉館の 30 分前まで）

■観覧料 一般 1,500（1,300）円、大高生・70 歳以上 1,100（900）円、中学生以下無料

＊（ ）内は前売および当日に限り 20 名以上の団体料金

＊障害者手帳、特定医療費（指定難病）受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証等をご持参の方および必要な付添の方 1 名は無料

■前売券 10 月 6 日（火）から 11 月 27 日（金）まで販売

静岡市美術館（窓口、オンラインチケット）、セブンチケット [セブンコード：117-069]、ローソンチケット [Lコード：43452]、チケットぴあ [Pコード：687-545]、谷島屋（パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店）、MARUZEN & ジュンク堂書店新静岡店、戸田書店江尻台店、百町森

■主催等

主 催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、Daichi-TV

特別協力：エドワード・ゴーリー公益信託、ゴーリーハウス（ケープコッド）

協 力：株式会社 河出書房新社

企画制作：株式会社イデッフ



《電車》 JR 静岡駅北口より地下道を利用して徒歩 3 分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩 5 分
《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約 1 時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約 2 時間
《車》 東名静岡 IC より約 15 分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
（静岡エアポートライナー）で約 1 時間

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町 17-1 葵タワー 3F
tel. 054-273-1515（代表） www.shizubi.jp

■本展のみどころ

1 ゴーリー作品に秘められたメッセージに迫る

エドワード・ゴーリーがテキストとイラストの両方を手掛けた「主著 (Primary Books)」と呼ばれる著作は、ゴーリーの真骨頂ともいえる作品です。古語や押韻を用いた独特な文章と、モノトーンの緻密な線描で生み出されたイラストは、時に読者を不安に陥れる一方、不思議な魅力にあふれています。本展では、自身を投影したようなキャラクターや日本文化からの影響など、これまでの展覧会とは異なる視点からゴーリー作品を読みときます。

2 挿絵やブックデザインの仕事もたっぷりご紹介！

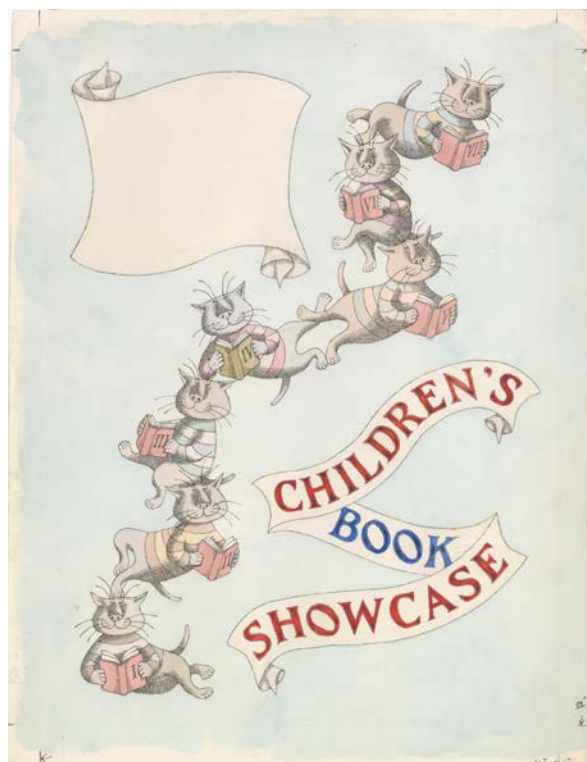
本展では、他の作家の詩や書籍に挿絵を手掛けた作品の原画やブックデザインなど、「主著」以外の仕事にも焦点をあててご紹介します。2万6000冊もの蔵書を抱えるほどの愛書家であったゴーリーは、作品内容を把握し、その世界観に沿ったブックデザインを残しました。『ブレア・ラビットのトリックの続き』(文：エニス・リース、1968年)や、生前最後に手掛けたとされる雑誌『ニューヨーカー』(2000年3月27日号)の挿絵原画、ダブルデイ社「アンカー叢書」でのブックデザインなど、「主著」とは一味違ったゴーリーの魅力をぜひご堪能ください。

3 日本初公開作品を含む、約300点でゴーリーワールドを堪能

『ブレア・ラビットのトリックの続き』、『とてもよい時計』(文：ミュリエル・スパーク、1968年)、『サムとエマ』(文：ドナルド・ネルセン、1971年)といった絵本原画のほか、書籍や演劇に関するポスター、科学雑誌や教科書といった出版物の挿絵原画など、日本初公開の作品も多数出展。出版分野のみならず、デザインや演劇の分野でも才能を発揮したゴーリーを、約300点の作品を通してご紹介します。

エドワード・ゴーリー (1925-2000)

1925年、シカゴ生まれ。ハーバード大学フランス文学科卒業後、出版社でブックデザイナーとして、挿絵、ブックデザインなどを手掛ける。その後、自身の著作を発行する「ファントッド・プレス」を立ち上げ、独立。独特な韻を踏んだ文章と、モノトーンの緻密な線描の絵本を出版する。自他ともに認めるほどのバレエファンで、舞台や衣装のデザイン、演劇やバレエのポスターなども手がけ、多彩な才能を発揮した。2000年4月15日心臓発作のため死去。享年75。ゴーリーが生み出す不思議な世界観は、ムーミンシリーズの作者であるトーベ・ヤンソンをはじめ、現在も世界中の多くの人々を惹きつけている。晩年を過ごしたケーブコッドの邸宅は、現在「ゴーリーハウス」という名の記念館として一般に公開されている。



「子どもの本のショーケース」ポスター・原画、1973年

第1章 ゴーリーって誰だ？

1943年、ゴーリーはハーバード大学に入学。学生時代のドローイングには、前方に長く伸びた独特な顔の人物が描かれています。この人物は、ゴーリーが憧れを抱いていたルームメイトのトニー・スミスとも、ゴーリー自身ともされ、1953年に出版された最初の著書『弦のないハープ または、イアブラス氏小説を書く。』の主人公・イアブラス氏へと結実します。本章では、小説の執筆に苦悩するイアブラス氏や、『うろんな客』（1957年）に登場する不思議な生きものなど、自身を投影したともされる人物像から、ゴー



『弦のないハープ または、イアブラス氏小説を書く。』挿絵・原画、1953年

第2章 絵の中の秘密

ゴーリー関わった仕事を網羅した『ゴリオグラフィー(Goreyography)』（ヘンリー・トゥリーダーノ著、1996年）において、テキストとイラストの両方を手掛けた作品は「主著(Primary Books)」に分類されています。本章では、様々な視点を通じて代表作を紹介し、ゴーリー作品の魅力を読みときます。

Point 不気味なユーモア

代表作『ギャシュリークラムのちびっ子たち』（1963年）や『けだもの赤子』（1962年）では、子どもたちが恐ろしい目に遭い、『錯乱したいとこたち』（1971年）や『おぞましい二人』（1977年）では、殺人や誘拐といった陰惨な出来事が綴られます。しかし、作品中の文章や挿絵は俯瞰的であり、わたしたち読者が感情移入し、心を乱されることはありません。独特のユーモアを交えて描かれた「不幸な子どもたち」や「不合理な出来事」は、ゴーリーの達観した死生観を表したものとと言えます。



『ブルーイン人II』挿絵・原画、1965年



C is for CLARA who wasted away

『ギャシュリークラムのちびっ子たち』挿絵・原画、1963年

Point くり返されたモチーフ

名刺サイズの白い紙や巨大なつぼ、奇妙な生きものは、ゴーリー作品にくり返し登場するモチーフです。ゴーリー作品をひもとく鍵にも思えますが、そこに意味を見出すことはできません。「人々がものごとに意味を見出そうとしている時は、用心せよ」と作者本人が語るように、捉えどころのなさそのものがゴーリー作品の醍醐味ともいえるでしょう。

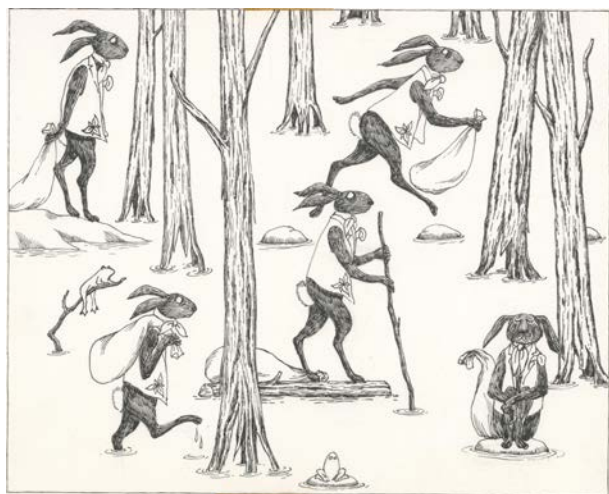
Point 日本文化とゴーリー

第二次世界大戦中、18歳で入隊したゴーリーは、兵役により日本に関する勉強をしました。愛読書に『源氏物語』をあげるなど、ゴーリーは生涯にわたり日本文学と芸術に関心を抱き続けました。ここでは、「鳥獣戯画」にみられる動物表現や篆刻、着物の文様など、日本文化の要素を取り込んだ作品を紹介します。

第3章 優雅な挿絵

ゴーリーが他の作者の詩や書籍に挿絵を提供した作品は、『ゴリオグラフィー』にて「二次的著作 (Secondary Book)」と呼ばれています。すっきりとした画面構成でスタイリッシュな『ツリーホーンのたからもの』(文: フローレンス・パリー・ハイド、1981 年) や、水彩を用いた淡くやわらかい色が特徴的な『サムとエマ』など、物語に寄り添った挿絵からは、「主著」とは異なるタッチや雰囲気を味わえます。本章では、日本初公開の『ブレア・ラビットのトリックの続き』の挿絵原画をはじめ、その仕事の一端をご覧ください。

日本初公開



『ブレア・ラビットのトリックの続き』挿絵・原画、1968 年

日本初公開



『サムとエマ』挿絵・原画、1971 年

第4章 ブックデザイナー ゴーリー

ゴーリーは 1953 年に出版社ダブルデイに就職すると、「アンカー叢書」に所属し、本に関する仕事に本格的に携わり始めました。「アンカー叢書」において、ゴーリーがブックデザインとタイポグラフィを手掛けた作品は 50 冊以上にのぼり、タイポグラフィのみを担当した作品はそれ以上ともされています。表紙から本文に至るまで行き届いたデザインは、シンプルながら 50 年以上経った現在も色あせることはありません。ブックデザインや挿絵の仕事は、文学作品のみならず科学雑誌や教科書にもおよび、さらには雑誌や新聞の挿絵を継続的に請け負うようになります。ゴーリーが生前最後に手掛けたとされるのも、まさに雑誌『ニュー Yorker』の挿絵でした。



Point 「アンカー叢書」とは

長らく絶版となっていた古典作品を、第二次世界大戦後の復員兵へ安価に提供することを目指し、ダブルデイ社より誕生した。古典作品の再版に加え、文学作品やノンフィクションをペーパーバックで出版し、新しい潮流を切り開いた。

雑誌『ニュー Yorker』の挿絵は、本展公式図録の表紙にも使われています。

第5章 ゴーリーと舞台芸術

ゴーリーは自他ともに認めるバレエ好きで、1957 年頃から、ニューヨーク・シティ・バレエ (NYCB) のすべての公演を見たといいます。振付師をつとめていたジョージ・バランシンを敬愛し、バレリーナとの交流を通して、バレエを主題とした作品を生み出しました。晩年、ボストン近郊のケープコッドに移り住んだゴーリーは、演劇やコンサートにおける舞台やポスターのデザインを気軽に引き受けていたようです。自ら演劇の脚本を執筆するなど、当時の作品や資料からは地元住民との協働を楽しむ様子が伺えます。



『青い煮凝り』挿絵・原画、1968 年

■関連イベント ※申込方法の詳細は当館 HP をご確認ください。

◆講演会「エドワード・ゴーリーを訳す愉しみ」

日時：12 月 5 日（土）14：00～15：30（開場 13：30）

講師：柴田元幸氏（エドワード・ゴーリー作品翻訳者、東京大学名誉教授）

会場：当館多目的室 参加料：無料 定員：70 名 [応募多数の場合は抽選]

申込締切：11 月 19 日（木）必着

◆当館学芸員によるスライドトーク

日時：12 月 26 日（土）14：00～（40 分程度）

会場：当館 多目的室 参加料：無料 ※申込不要、先着順。当日会場へお越しください。

◆交流事業「ダンス・ウェル」

「ダンス・ウェル」とは、パーキンソン病と共に生きる方を主な対象に、こどもから大人まで一緒に参加できるダンスプログラムです。エドワード・ゴーリーの作品や美術館の空間と対話しながら、思うままに自由に身体を動かしてみませんか。

日時：12 月 20 日（日）10：30～12：00

講師：なかむらくるみ氏（ダンス・アーティスト、カラダ媒介人、ダンス・ウェル講師）

アシスタント：酒井直之氏（ダンス・ウェル講師）、長澤あゆみ氏（ダンス・ウェル講師）

会場：当館多目的室および展示室 参加料：無料（要観覧券）

定員：15 名 [応募多数の場合は抽選] 対象：どなたでも

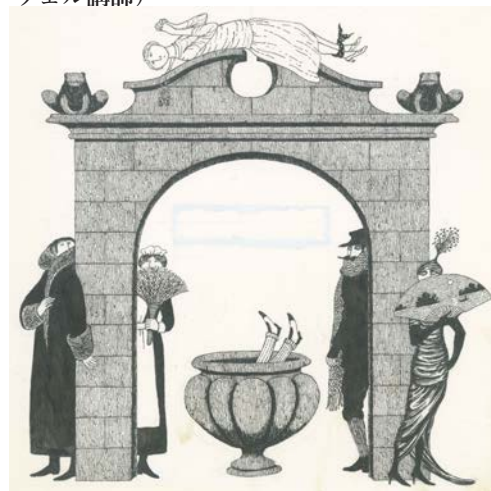
申込締切：11 月 26 日（木）必着

連携協力：（公財）東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

◆12 月平日限定！冬の夕暮れ特典

12 月の平日 15 時以降にご観覧の方、各日先着 50 名様に、
本展オリジナルグッズをプレゼント！

※本展をご観覧の方に限ります（1 名につき 1 点）。



『ミステリー！』原画、1980 年代